

大城クロイ

プログラム初日、私たちは、大勢のハワイ仏教婦人会の会員の方とお寺のメンバーに見送られ空港を後にしました。

日本での初日は、青少年国際研修団のみんなと共に本願寺で過ごしました。短い間でしたが、北米、カナダ、ブラジルの参加者と一緒に過ごせて楽しかったです。2年前、自分が青少年国際研修団に参加した時のことが懐かしく思い出されました。午後にはご門主様とのご面接があり、その後、本願寺を案内してもらいました。

2日目は、宗派職員と一緒に大阪の津村別院へ行きました。まず、大阪の仏教婦人会の皆さんとお会いしました。日本語で自己紹介をする時ものすごく緊張しましたが、仏婦の皆さんは辛抱強いうえにとっても寛容でした。その後、別院の地下にある「北御堂ミュージアム」に案内され、本願寺が、日本の戦国史で大きな役割を果たしていたことを知り、驚きました。

19日には京都を出て広島に向かいました。まず広島別院に参拝し、原爆資料館へ向かいました。資料館を訪れるのは三度目でしたが、いつも新しい発見があります。

翌日は、広島北部の光源寺で、お茶席を体験し、生け花の手ほどきを受けました。お寺の仏婦会員の皆さんとおしゃべりをしているとき、広島とハワイには様々なきずながあることに気づきました。親戚がハワイに移住してプランテーションで働いていた、という方がいて、うちの家族と同じだ、と思いました。ちがうのは、その人の親戚はある程度働いた後、日本に帰国しているという点です。

21日からは、島根県のお寺でホームステイをしました。そのお寺では毎年、常見寺サマースクールという子どもたちを対象にした行事を行っており、私たちもお手伝いをしました。参加者らの子どもたちと一日中ゲームをしたり、お話を聞かせてあげたり、英語やアメリカの手話を教えてあげたりして過ごし、片言の日本語ですが子どもたちと話せてとても楽しかったです。

次の日は大田市内を観光しました。まず世界遺産にも登録されている石見銀山を訪れ、銀山についていろいろ学びました。島根県立三瓶自然館にも行き、ホストファミリーや門徒さん方といっしょにバーベキューの夕飯をとりました。ケイタリンと私は、皆が日本語で親しんでいる仏教讃歌の英語版を披露しました。私は「オリ」と呼ばれるハワイ語の詩も詠唱してみせました。

23日は、松江ヴォーゲルパークと松江城を訪れました。ヴォーゲルパークはとても美しい場所で、私たちはその日の大半をそこで過ごしました。天井からたくさんの鮮やかな色の花々が垂れ下がっている施設があり、公園内のあちこちに、フクロウやエミューやペンギンやオオハシなどの鳥がいて、エサをあげることができます。

24日の午前中は常見寺で仏婦会員の皆さんと縫いものをしたり、折り紙をしたりして交流しました。通訳の方に助けてもらいながら、皆と真珠湾攻撃がハワイやアメリカ本土にどのような衝撃を与えたかについて語り合う一幕もありました。その後、お寺の仏婦メンバーの方がご自宅のお茶席に私たちを招待してくれました。そのご門徒さんは私たちに浴衣を着せてくれたうえ、その浴衣をそのままプレゼントしてくださいました。ホームステイの最後の日だったので、その日の夕飯は寿司パーティーで盛り上がり、ホストファミリーとの別れを惜しましました。

25日、ホストファミリーとお別れして京都に戻りました。京都までは電車でおよそ6時間もかかりました。2年前、青少年国際研修団に参加したときお世話になったホストファミリーもかけつけてくれて、2年ぶりの再会を喜びました。

7月26日はお裏方様とのご面接の日でした。お裏方様はおやさしくて、私たちにとっても気さくに接し

てくださったので驚きました。心から歓迎してくださっているのが感じられ、私たちのつたない日本語にも辛抱強く耳を傾けてくださいました。ご面接の後、日本のあちこちから集まってくれた4名の仏婦会員の皆さんと奈良に出かけました。途中で鹿におやつをあげたりしながら、市内のあちこちを訪れました。

最後の日、奈良から大阪へ移動しました。道頓堀で買物をして、柴犬カフェで休憩をし、おやつにかき氷をいただきました。

今、この旅をふりかえってみると、出会った人たち一人一人が私たちが心からもてなしてくれたように思います。ともにすごした時間は少ないけれど、皆が家族のように感じられました。いつかまた日本を訪れて、皆にお目にかかりたいと思います。この2019年仏教婦人会交換学生プログラムに参加できて心より感謝しています。これからも多くの仏教婦人を育てられるよう、このプログラムが長く続くことを願っています。